

八街市立八街中学校

1 学校の紹介

(1) 学校教育目標

校訓「拓道」のもと、新しい時代にたくましく生きる力を持った生徒の育成

めざす生徒像

- (1) 基礎学力を身につけ、自ら考え主体的に学び合う生徒
 - ・ 学び方がわかる生徒（学び合いの中での主体的、対話的な学習）
 - ・ 自ら考え、意欲を持って学習できる生徒（深い学びにつながる考え）
- (2) 自ら自分を律することのできる生徒
 - ・ 基本的な生活習慣を身につけられる生徒（規範意識の向上）
 - ・ 健康と安全を自覚して、粘り強く行動できる生徒
- (3) 思いやりの心を持ち、協力する生徒
 - ・ 相手の気持ちを考え行動できる生徒
 - ・ 奉仕的な活動に積極的に取り組むことができる生徒
- (4) 自ら考え判断し行動できる生徒
 - ・ 指示されたことだけでなく事の善悪を自分で判断できる生徒
 - ・ 校内外の行事や生徒会活動に積極的に参加できる生徒
 - ・ 自分の進路について真剣に考え、実現に努力できる生徒

挨拶・返事・清掃・合唱（挨拶・返・清・合）の徹底

(2) 学校の概要

- ・ 学級数 15 学級（1 年 5 学級、2 年 5 学級、3 年 5 学級、特別支援学級 7 学級）
- ・ 生徒数 532 名（1 年 185 名、2 年 155 名、3 年 192 名）

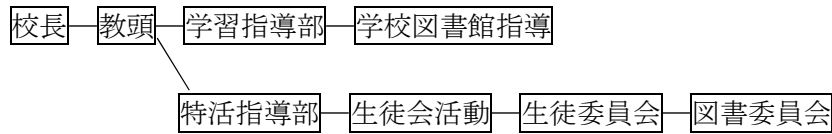
2 自校の学校図書館の現状

本校の学校図書館は、2 階中央棟に配置されている。生徒たちは学年ごとに各棟で生活しているため、学年によっては図書室への移動に時間がかかってしまう校舎の造りとなっている。図書環境としては、図書室が非常に狭く、1 クラスが図書室内で授業することは難しい。また、新着本も定期的に発注しているが色褪せしている古い本が多く、整備が必要とされる状況である。こういった理由により、図書室へ足を運ぶ生徒は決まった生徒が多い。

全校では、年間を通して 10 分間の朝読書の時間を取り入れている。読書時の選書は自由で、個人的に店頭で購入した本、学級文庫や学校図書館で借りた本を手にする生徒もいる。しかし、読むジャンルには偏りがあり、特に置かれている古典や近代文学については「読みづらい、面白くない」といった苦手意識から興味を示さない生徒が多い。

3 司書教諭及び図書主任等の教員の取組

(1) 校内組織と主な役割



(2) 生徒や教員に対する支援

ア 学校図書館の運営に関すること

・特設コーナーの設置

学校図書館内には、新着図書コーナーや、話題の本のコーナー、オリンピック・パラリンピックのコーナー、キャリア教育に関するコーナーなどを設け、生徒が本を手にしたくなるような工夫をしている。

イ 読書推進活動に関すること

・学級文庫

各学級の図書委員が、クラスメートが興味を持ちそうな本を学校図書館の蔵書から10冊程度選び、教室内に学級文庫と設置している。学級文庫は毎月、入れ替えを行っている。

・朝読書

8時20分から30分までの10分間、全校で朝読書に取り組んでいる。読書指導担当から毎年提案され、テスト前の時期に学習等が行われるとき以外は、年間を通して行われている。本は学校図書館より貸出しや学級担任が用意した学級文庫や、各自で用意したもので、雑誌、漫画、新聞、教科書は不可である。図書委員が開始と終了の指示を出し、全校が落ち着いた雰囲気を読書活動に取り組んでいる。

・リクエストカード

学校図書館に購入して欲しい本は、全校生徒が誰でも出せるリクエストカードに書いて提出することができる。リクエストカードは、本が購入されるまで学校図書館に掲示される。

・読書カードと読書POP

図書委員は専用の読書カードを所持し、自らの読書を記録するとともに、読書POPを作成・掲示し、読書の普及に尽力する。

・美術部によるシャッター画プロジェクト「最後の本屋さん」

八街駅南口商店街振興組合が中学校の依頼により美術部によるシャッター画を行っている。書店を描いた“最後の本屋さん”は、歩行者から「あなたの人生に最も影響を与えた本」を聞き、絵の中の本に描き込むという市民参加型作品として制作中。

・ジュニア司書養成講座

市立図書館で生徒が司書としての知識や技術を学びながら、読書の面白さや素晴らしさを学校や家庭に広めながら読書リーダーになるよう育成するための講座。毎年本校から数名の参加者がおり、マイスターの認定を受けている生徒もいる。

美術部によるシャッター画プロジェクト (美術部)

読書カードとポップ (図書委員会)

“最後の本屋さん” プロジェクト

かつてこの場所に本屋さんがありました。しかし今はありません。八街中学校の美術部が4月から少しずつ描いているシャッター画の本屋さんも完成間近。この本屋さんには、題名のない本がたくさん並んでいます。

「ここは、シャッターに描かれた最後の本屋さんです。あなたの人生に、最も影響を与えた本、あなたが1番好きな本を教えてください。あなたの大切な本の題名を、あなたの手で書き込み、大切な本を“最後の本屋さん”に並べてくれませんか。

“最後の本屋さん”は、たくさんの人の大切な本でいっぱいになり、ここにあり続けることができるのです。そしていつか、このシャッターが開いた時、みなさんの大切な本が並んだ、本当の本屋さんが中から現れたら！」

たくさんの人に、大切な本のタイトルと、お名前(イニシャルなど)を書き込んでもらい、本屋さんを完成させます。



ご参加いただける方は毎週土曜日10:00~11:00(雨天中止)の活動中に声をかけて下さい。題名の無い本が無くなり次第終了(完成)です。

第10回八街ミュージアム 平成30年10月15日(月)~平成30年11月4日(日) 八街駅南口商店街/八街商工会議所1F/八街駅市民ギャラリー
主催: 印旛郡教育研究会第4部会団工・美術研究部 協力: 八街駅南口商店街振興組合/八街中学校美術部顧問会 後援: 八街市教育委員会

本を読まない図書委員の呼びかけが、人々の心に届くだろうか!

図書委員による 八街中学校読書化計画2020

其一、図書委員は休み時間なども積極的に読書をし、読書を行なうに努めること。
其二、図書委員は図書室の本を1ヶ月に3冊以上読み、読書メモを1ヶ月以上作成すること。
其三、図書委員は八街市中央図書館に問い、読書や読書物について積極的に学ぶこと。

図書委員会専用読書カード

読書情報	本の題名	内容を一言で	お気に入りの文	評
〇			S A B C	
〇			S A B C	
〇			S A B C	
〇			S A B C	
〇			S A B C	
〇			S A B C	

年 組 図書委員会 名前

授業や委員会の活動にとどまらず、部活動でも子供たちがより一層読書に親しむことができる環境作りを推進する活動を行っている。

(3) 学習等に関する支援

ア 「自分のお気に入りの本の帯づくりをしよう」(1年)

「少年の日の思い出」のキャッチフレーズや印象的な言葉や見つけ出し、本の帯に書く言葉を考え、作る活動を通し、自分のお気に入りの本で帯を作成し、学級文庫の本で実際に使用した。

イ 「心に響く孔子の言葉を紹介しよう」(2年)

学校図書館の本を利用し、教科書には載っていない孔子の言葉から、心に響いたものを友達に紹介し合った。

ウ 「方言分布図を作ろう」(2年)

学校図書館の本を利用し、学級で定めた標準語を各地方の方言ではどのように言うのかをカードに記入し、学級で一枚の方言分布図を作成した。

エ 「ビブリオバトルで本の魅力を伝え合おう」(3年)

ビブリオバトルの雰囲気が伝わるように、実際のビブリオバトルの映像を見せた。構想メモを使ってシナリオを作成し、小グループで発表。代表戦をクラスで行い、チャンプ本を決めた。

第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 T1 国語科教諭
T2 学校司書

- 1 単元名 伝統を見いだす（教材名 随筆の味わい—枕草子・徒然草—）
- 2 単元の目標
 - ・読み手のことを意識し、工夫を取り入れた読書ポップを作ろうとしている。
[国語への関心・意欲・態度]
 - ・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。
[読むこと]
 - ・「枕草子」から気に入った章段を一つ探し、清少納言という人物のものの見方や感じ方を読み取り、読書ポップを作ることができる。
[書くこと]

3 本時の指導（4／5）

（1）本時の目標

- ・読み手のことを意識し、見やすくわかりやすい読書ポップを作ろうとする。
[国語への関心・意欲・態度]
- ・「枕草子」から気に入った章段を一つ探し、清少納言という人物のものの見方や感じ方を読み取り、読書ポップを作ることができる。
[書くこと]

（2）本時の展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子・うつくしきもの」の章段を音読する。 【見出す】 ・教師が作成した「うつくしきもの」の章段の読書ポップを見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声ではっきりと読ませる。 ・学校図書館等の本を利用して、「枕草子」の他の章段の読書ポップを作ることを伝える。 	読書ポップの見本
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・読書ポップの作り方を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成した見本を元に、書き綴る事柄や書く内容を確認する。 	作成図
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学習課題 読み手のことを意識した読書ポップを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【調べる】 ・学校司書のアドバイスを受け、選書をする。 ・学校図書館等にある枕草子を読み、気に入った章段を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の選書のポイントと題名一覧表を参考にして探させる。 ・選書で悩んでいる生徒には、わかりやすい本を紹介する。 ・読書ポップの書き方や口語訳を参考にしようアドバイスする。 	

25分	<p>【深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気に入った章段の読書ポップを作る。 ・読み手のことを意識し、見やすくわかりやすくなるような工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章段の見どころや内容、読んで思ったことなどを自由に書かせる。 ・折り紙や色鉛筆など、彩り豊かな読書ポップにできるようアドバイスする。 ○読み手のことを意識し、見やすくわかりやすい読書ポップを作ろうとしている。 【関・意・態/観察】 ○「枕草子」から気に入った章段を一つ探し、清少納言という人物のものの見方や感じ方を読み取り、読書ポップを作っている。 <p>【書くこと/読書ポップ】</p>
7分	<p>【まとめあげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い読書ポップを紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3分間ギャラリーウォークをし、着席後に読み手という立場から見た良いポップを紹介させる。 ・名前が挙がった生徒には、こだわった点を発表させる。
3分	<ul style="list-style-type: none"> ・読書ポップを回収し、次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の活動を振り返り、次時の交流につなげられるようにする。

(3) 授業の様子



学校司書による説明の様子



自分の気に入った章段を探す様子



ギャラリーウォークの様子

読むジャンルに偏りがあり、特に古典や近代文学に対する苦手意識が強い生徒たちであったが、古典に関する本を自ら選書し、手に取ってみると「面白い」「古人（昔の人）はこんなことを思っていたのか」「今も昔も変わらない」という声を聞くことができた。

共感できることや多くの発見があったからか、多くの生徒が手を止めず、先人と対話するかのよう黙々と取り組んでいた。また、相手意識を持つことの難しさを感じながら、一人一人のこだわりがみられる読書ポップを完成させた。その後の振り返りでは読書に対する意識に変化があり、読書の幅を広げていこうという姿勢がみられた。

授業で使用した資料

- ・「絵でわかるたのしい古典 4 枕草子・徒然草」「枕草子」「超訳日本の古典 3 枕草子・更級日記」学習研究社
- ・「絵で見てわかるはじめての古典三巻 枕草子」学研教育出版
- ・「枕草子 角川書店編 ビギナーズ・クラシックス」角川学芸出版
- ・「日本の古典をよむ 8 枕草子」「日本古典文学全集 枕草子」小学館
- ・「少年少女古典文学作品 4 枕草子」「すらすら読める枕草子」講談社
- ・「日本の古典文学 5 枕草子・徒然草」偕成社
- ・「日本の古典文学 7 枕草子・徒然草」さ・え・ら書房
- ・「リンボウ先生のうふふ枕草子」祥伝社
- ・「日本の文学 古典編枕草子（上）」「日本の文学 古典編枕草子（下）」ほるぷ出版
(資料提供 八街市立図書館・八街市立八街中央中学校・八街市立八街南中学校)

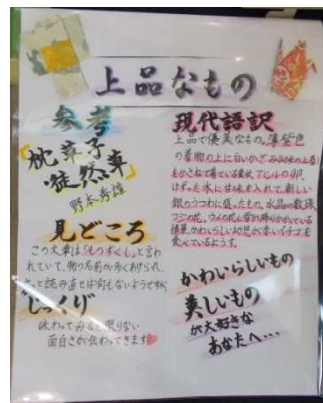
(4) 読書ポップの展示



八街市立図書館の展示



八街中学校図書館の展示



今回の授業で生徒が実際に作成した読書ポップ

市立図書館では、市民の方に感想をいただくコーナーを設け、「古典を読みたくなる要素がいっぱいです」「素晴らしい表現力です」といった言葉をいただいた。

4 成果と課題 ～実践を終えて～

成果として、導入部で学校司書によるポップ作りの定義や工夫点を伝えたことで、より具体的にポップ作りのイメージを膨らませることができた。

作成したポップをお互いに見せ、良さを伝え合う活動では、“相手意識”を持つとはどういうことなのか、振り返る時間となった。相手が「読みたい」と思うような工夫は、見や

すさや彩りだけでなく、相手を引き付けるような見どころを書けたか。そういった点を深めることができた。また、学校司書に出来上がった作品について、専門的な視点から評価していただき、生徒の意欲が高まった。

また、読むジャンルに偏りがあり、特に古典や近代文学に対する苦手意識が強い生徒たちであったが、今回の実践を通して、「枕草子を買おう（借りよう）と思います。」「他の作品も読んでみようと思います。」という生徒もおり、古典に対する意識に変化や読書の幅を広げていこうという姿勢がみられた。

日頃、図書室の掲示物や新着本コーナーを作ってくださっている学校司書に協力していただき、図書室の一部に今回の授業で作成した読書ポップコーナーを設営したことで、全生徒が他者に読書ポップを見てもらう機会を得た。また、学校司書の提案で市立図書館に感想箱を設置し、中学生が作った読書ポップについて市民の声を聞くことができた。

しかし課題としては、本校全体の学校図書館と授業との関連が薄く、まだまだ学校司書との連携が密でないことが挙げられる。学校図書館利用計画をしっかりと立て、日頃から教師の日常的な教科指導において、国語科に限らず学校図書館を積極的に利用していくこと、学校司書による授業支援の場を増やしていく必要がある。

また、そのためには本校の学校図書館は蔵書の入れ替えや読書（スタディ）スペースの確保、インターネットを付け加えてより情報の収集しやすい環境を整えることなど、図書室の整備が一刻も早く必要とされる。